

平成 27 年度病害虫発生予察 特殊報第 6 号

平成 28 年 1 月 4 日
大分県農林水産研究指導センター
農 業 研 究 部

1 病 害 名 メボウキ (バジル) ベと病 (仮称)

2 病原菌名 *Peronospora belbahrii* Thines

3 発生物種 メボウキ (バジル)

4 発生経過

平成27年9月に大分県のメボウキ (バジル) において、葉枯れ及び立ち枯れ症状を呈する病害が発生した。農林水産省門司植物防疫所に同定を依頼したところ、メボウキ (バジル) ベと病 (仮称) と同定された。

本病は、国内では茨城県、静岡県及び神奈川県において発生が確認されており、九州では初確認となる。

5 県内の発生状況

- 1) 初確認年月日：平成27年9月24日
- 2) 発生確認地域：大分県東部地域
- 3) 発生確認面積：2 h a

6 発生生態及び伝染方法等

- (1) 葉では、葉表が黄化し、葉裏には灰褐～黒褐色の標徴を生じ、茎には茶褐色の条斑を生じる (写真 1、2、3)。進展すると葉枯れ及び立ち枯れ症状となる。
- (2) 病原菌は糸状菌の一種で分生子を形成し、空気伝染により感染が拡大する (写真 4)。寄主範囲はシソ科のメボウキ属、コリウス及びカワミドリ属の一種とされている。
- (3) 海外では種子伝染することが報告されている。

7 防除対策

- 1) 罹病葉は伝染源となるため、圃場外に持ち出して埋没処理を行うとともに、作付け後は、圃場内に罹病残渣が残らないようにする。
- 2) 本病は多湿条件で発生が助長されるため、施設栽培では通風を良好にし、過度な密植を避ける。
- 3) 本病に登録されている薬剤はないことから、早期発見に努めるとともに、発生を確認した場合は罹病部位を速やかに除去する。



写真1 圃場における被害株の症状



写真2 葉表の症状



写真3 葉裏の標徴



写真4 病原菌の分生子及び分生子柄

(農業研究部病害虫チーム原図)